



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：サファヴィ最高指導者軍事顧問の発言 (9月18日付現地各紙)

(注：サファヴィ最高指導者軍事顧問は、9月2日、ハメネイ最高指導者により革命ガード総司令官の職を解かれ、現職に就任した。)

1. 米国の対イラク政策

- (1) 先週のブッシュ米大統領演説によれば、イラク駐留米軍部隊の活動は、自ら作戦を主導する現在のやり方からイラク国軍との共同へ、そして最終的にはイラク国軍の監督へと変わっていくことになる。血塗られた4年間の戦いを経て、ブッシュ大統領は戦略を変更し、米軍部隊の段階的撤退を発表しなければならなくなった。
- (2) イラク駐留軍16万1千人中、15万人以上が米軍兵士である。米政権は内外の圧力を軽減するため、その規模を削減せざるをえなくなっている。屈辱的な軍撤退を正当化するため、米政権はイラク政策失敗の責任をイラク政府、イラン、シリアに押し付けようとしている。(米国は、証拠もなく、イランがイラクのテロを支援しているというが) 米国こそイラク、アフガニスタン、パキスタン国境地帯で反イラン・テロリストを支援し武器を供給している。
- (3) イラクに関するイラン・米協議は、米側の文書による要請に基づき行われているものである。この協議でイランは、イラクを加えた三カ国による治安委員会設置を提案し承認されている。我々は米側に、武器購入費としてイラク政府から取り上げた何百万ドルもの費用はどうなったのか、と尋ねている。イラクが米から購入した武器は、未だ届いておらず、イラク政府の現在保有する装備はアル・カーイダ等テロリストのそれよりも弱体化している。イラク国内の水道、電気、医療の状況は非常に悪く、イラク国民は10分に1人の割合で死亡している。他方、米軍兵士は10時間に1人が戦死し、10日当たり20億ドルが費やされ、その費用は石油会社、兵器産業に流れている。

2. 地域安全保障

イランは、強力で影響力ある国家として、湾岸及び中東諸国共通の利益を守ろうとしており、アラブ諸国との防衛協力を歓迎する。外国軍のプレゼンスはこの地域に不安定をもたらしているが、湾岸諸国は自らの力で地域の安定を確保することができる。米軍は招かれざる客であり、イラク及びペルシャ湾から立ち去らねばならない。

3. 革命ガード総司令官交代の背景

革命ガード総司令官の交代と内政・外交問題の間には何も関係性がない。交代は二カ月前より予定されていたものであり、反革命ガード的な分析や見方は、偉大なる革命ガード指揮官達の諸決定に何ら影響を及ぼさないであろう。